

のアルバム

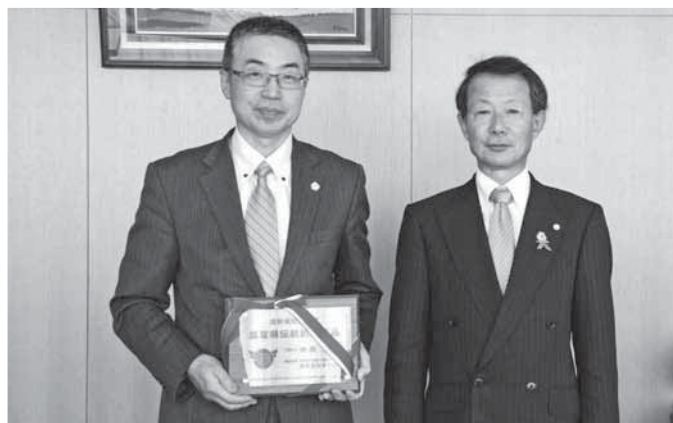
「技」と「美」の伝統を受け継いで

▼ 3月31日 市役所

「神輿」の製造を一貫して行う株式会社さかいの「神輿」が、「滋賀県伝統的工芸品」として指定されました。

この指定は、伝統的工芸品の振興を図るため、長い歴史の中で培われ、地域の人々の生活と密着しながら受け継がれてきた工芸品を県が指定するものです。

同社は、日本最大級と呼ばれるジャンボ神輿（飛騨高山まつりの森）の製作のほか、国宝彦根城の平成の大修理を手掛けるなど、神輿をはじめ文化財修復、仏壇や神仏具の製造・販売・修理の分野で幅広く活躍されています。



（左）（下）^{かざり}神輿の銙金具



水環境文化賞を受賞されました

▼ 4月2日 市役所

エコ遊覧を運航しているNPO法人家棟川流域観光船において、これまでの水環境保全活動や生態回廊の再生を目的とした水と生物の調査活動が、公益社団法人日本水環境学会に認められ「水環境文化賞」が授与されました。

この賞は全国レベルで学術的に認められたもので、大変名誉ある受賞です。

山仲市長への受賞報告では、エコ遊覧を通じて琵琶湖の実態を目で見て多くの人に知ってもらいたいと話されていました。



3月17日石川県金沢大学にて授与された
松沢松治さん（左）北出肇さん（右）



歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

無病息災の祈りをこめて —小南の念仏行事「一丁切り」—

多くの死者を出す伝染病は、古くは御霊や疫神がもたらすと信じられ、人々は神仏に祈りをささげて完治を祈るばかりでした。野洲市内には無病息災への祈りをこめた行事が各所で見られますが、小南には「一丁切り」と呼ばれる念仏行事が今日に伝わります。

小南は、「馬場」「寺村」「町（以下、マチとする）」「林」「皆込」という五つの小路に分けられます。朝鮮人街道沿いで日野川に近い家々で組織されるマチに継承される一丁切りは、百万遍念仏によって無病息災を祈願します。元来は、秋分の日での行事でしたが、昭和34年前後に農繁期をさけて春分の日に変更され、近年ではマチの地藏堂で行われています。ここでは、中央で導師が音頭をとるようして鉦を叩き、それを囲うようにマチの人々が座して数珠繰りを行います。

導師は、六人衆（マチの中の6人の年長者）の中古者が務め、まず浄土宗のお経を唱えながら数珠繰りを



50回、ついで浄土真宗のお経を唱え、再び数珠繰りを50回します。このように二宗の読経による念仏行事は非常に珍しいです。

数珠繰りの後は、お供えの菓子を懐紙に包んで紅白の水引でくくりつけた約2mの笹竹を、当番2人がマチ内の3箇所を立てに回ります。現在はマチに属するシンヤ（分家）が増えたため、かつての立てた場所とは異なりますが、以前の3箇所はマチ内に入る道で、マチの境界にもあたる場所でした。



笹竹は、集落に邪気や疫病などの侵入を防ぐ「辻切り」の意味をもつと考えられます。なお、直会では、参集した全員で豆腐を食す慣わしとなっています。

一丁切りは、宗派を問わずマチに属する家々が団結して、無病息災を祈願する行事です。伝統あるこの行事を、絶えることなく後世に伝えていただきたいものです。

(市史専門調査員 江藤弥生)



100歳おめでとう①

100歳の誕生日を迎えた藪下茂壱さん（虫生）を山仲市長がお祝いに訪問しました。

当日、市長訪問を楽しみにしておられた大正4年4月28日生まれの茂壱さんは、お寿司が大好きで特に盛り合わせが一番と話されました。

▼4月28日 虫生



100歳おめでとう②

100歳の誕生日を迎えた福島志ずへさん（久野部）を山仲市長がお祝いに訪問しました。

大正4年5月1日生まれの志ずへさんは、裁縫仕事に従事され多くの着物を製作されてきました。週2回のデイサービスを利用するのが楽しみだそうです。

▼5月1日 久野部

